

【JEFFスカラシップ賞】 授賞のことば

城東中央病院 栄養管理課 北岡睦男

このたび、「JEFFスカラシップ賞」を受賞できた事を大変光栄に思っております。選考委員の平田公一先生を始め関係者の皆様方に深謝致します。

私は病院栄養士を志し入学した専門学校を卒業してから今年で12年が経ちます。卒業当初、念願の病院勤務はできましたが給食管理に従事する毎日で臨床に携わる事、病棟に行く事など遠い目標でした。それでも多少の遠回りはしましたがこれまで目標を達成して参り、遂には栄養管理に関する「アワード」を受賞する事ができました。嬉しい反面、JEFFスカラシップ受賞で頂いた盾には「勉学に対する意欲を評価し将来の発展を祈念」と刻まれ身の引き締まる思いです。

現在私は大阪市城東区に在ります医誠会城東中央病院で管理栄養士として勤務致しております。当院は2004年よりNSTを稼動し本学会NST認定稼動施設やNST専門療法士教育施設の認定を頂いております。またチームにはTNT医師が3名、NST専門療法士、TNT-Dが数名所属するなど栄養管理に熱心な医療従事者の多い施設と自負しております。

また、それは当院周辺地域も同様に本学会評議委員であられる大阪市総合医療センターの西口幸雄先生を始め多数の熱心な先生方がおられます。そのような恵まれた環境の中で、私自身も多くの事を学びつつ、微力ながら地域連携の推進や栄養管理の質向上を図る活動(なにわNST倶楽部)にも参加致しております。その活動がきっかけで現在在籍しております大阪市立大学大学院生活科学研究科 栄養医科学教室の羽生大記教授と知り合いました。大学院進学理由は栄養管理に限らず医学、福祉分野など多方面での知識習得、研究方法について学びたかった事と羽生教授が取り組まれている「地域ケアを担うPh.D.臨床栄養師の養成 -病院と地域をつなぐ管理栄養士のエキスパート教育プログラム-」に魅力を感じたからです。

私の大学院での研究テーマは「高齢入院者様の身体組成におけるスリムガイドキャリパーを用いた7点皮下脂肪厚測定とインピーダンス法の比較」です。これまでも身体計測に関する研究報告は健常人を対象とした新日本人の身体計測基準値(Japanese Anthropometric Reference Data:JARD)をはじめ体重や上肢、下腿での報告は多数ありますが、高齢入院患者を対象とした全身での検討は見られず新しい試みと考えております。

テーマのきっかけは日常、身体計測を実施していて大変技術が必要だと痛感した事が始まりです。特に癌性悪液質やサルコペニアのような脂肪量、筋肉量が枯渇し弛んだ皮膚を呈する上腕の測定は大変技術を要し、はたして真の値に近い測定ができているのか？また測定部位は上腕や下腿に限定されその他の部位では評価ができないのか？と疑問を感じたからです。国内の栄養関連の教科書や雑誌を検索致しましたが、誤差を軽減する測定方法や皮下脂肪厚の測定部位も上腕三頭筋皮下脂肪厚と肩甲骨下部皮下脂肪厚以外の項目を見つけない事ができなかったためです。

全身の測定方法について見当が付かなかったため検索の際に知ったISAK(The International Society for the Advancement of Kinanthropometry)が示す測定方法を参考に致しました。ISAKでは上腕三頭筋皮下脂肪厚以外に上肢では2点、体幹4点、下肢2点の誤差軽減を考慮した測定方法が示され、測定技術の認定(Anthropometrist)も行っております。認定には解剖学やなど7講義を受講した後、測定者間で皮下脂肪厚10.0%、周囲長と骨幅2.0%、測定者内で皮下脂肪厚7.5%、周囲長と骨幅1.5%の誤差範囲での測定技術が必要になります。認定には大変苦労致しましたが身体測定への自信やソマトタイプ(Somatotype)という体系分類法などの知識を得る事ができ大変研究の参考となりました。

研究者としては経験も浅く未熟であります但し羽生教授の指導の下、盾に刻まれた言葉に恥じないように、また栄養管理に携わる医療従事者や自宅にて療養されている患者様、介護者の一助となる研究を目指したいと考えております。

最後になりましたが、私を支えて頂いている全ての方々にお礼を申し上げます。これからもよろしくお願い致します。